



資料7

大阪湾再生行動計画の取り組み

～「魚庭(なにわ)の海」の再生をめざして～

平成21年8月17日

大阪湾再生推進会議

大阪湾再生行動計画(1)

1. 行動計画策定の背景

- H13.12 都市再生プロジェクトに「海の再生」を位置付け(第3次決定)
- H15.6.15 都市再生本部会合にて「大阪湾再生推進会議(仮称)」を設置して大阪湾再生に取り組む予定」とされた。
- H15.7.28 関係する府省及び地方公共団体等が、「大阪湾再生推進会議」を設置。
- H16.3.26 「大阪湾再生行動計画」を策定。
- H16年度以降、毎年の実施状況のフォローアップ。

行動計画期間： **10年間(平成16年度～平成25年度)**

大阪湾再生推進会議構成員(16機関)

内閣官房・農林水産省・経済産業省・国土交通省・環境省
滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・京都市・大阪市
堺市・神戸市・(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構

大阪湾の現状(1)

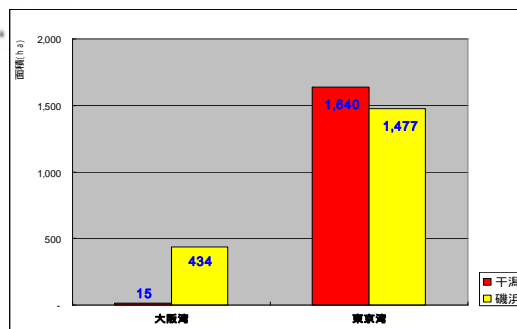
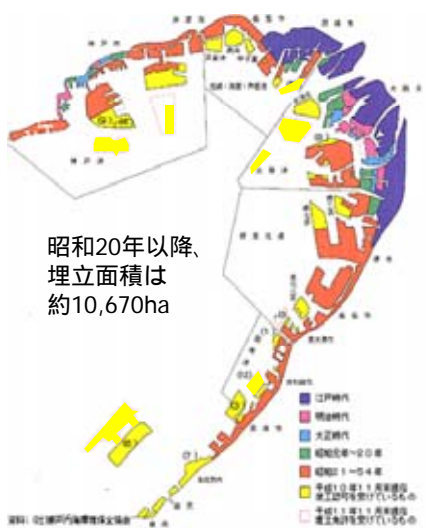


- 大阪湾集水域
 - 府県界
 - 河川
- ・大阪湾：1,450km²
(平均水深 2.8m)
 - ・河川：74河川
(淀川・神崎川・武庫川・大和川等)
 - ・集水面積：10,140km²
(2府5県)

2

大阪湾の現状(2) 埋立・干潟等の状況

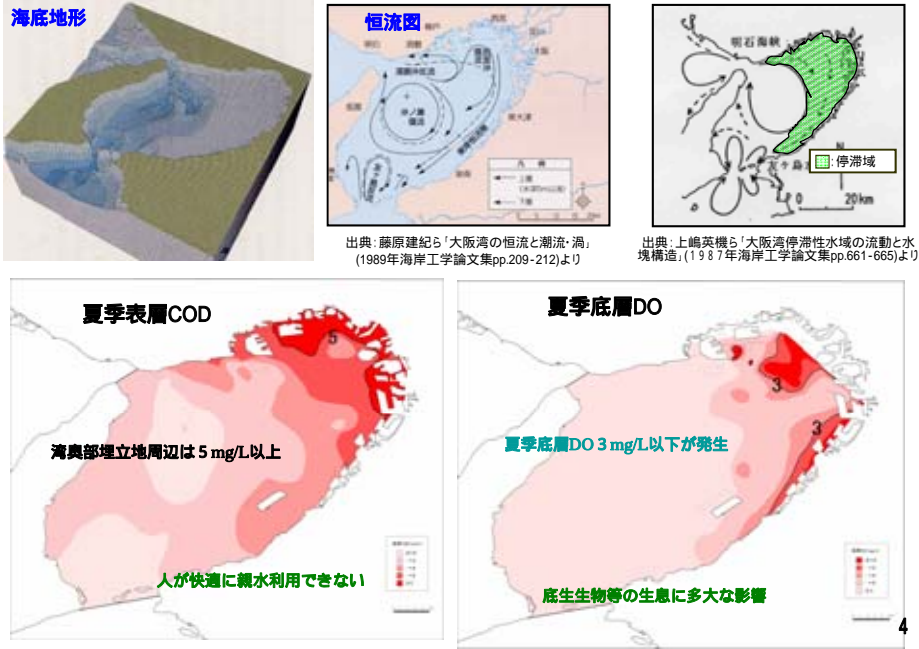
江戸時代からの埋立てで干潟・浅場をなくす



大阪湾は東京湾より干潟・磯浜が非常に少ない

3

大阪湾の現状(3) 流況・水質



大阪湾再生行動計画(2)

2. 行動計画の目標

森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭（なにわ）の海」を回復し、京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する

具体的な目標	指標
年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する	底層DO(溶存酸素量) ・5mg/L以上(当面は3mg/L以上)
海域生物の生息に重要な場を再生する	干潟・藻場・浅場等の面積 砂浜・磯浜等の延長
人々の親水活動に適した水質レベルを確保する	表層COD・散策、展望:5mg/L以下 ・潮干狩り:3mg/L以下 ・海水浴:2mg/L以下 ・ダイビング:1mg/L以下
人々が快適に海にふれ合える場を再生する	自然的な海岸線延長
臨海部での人々の憩いの場を確保する	臨海部における海に面した緑地の面積
ごみのない美しい海岸線・海域を確保する	浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ

魚庭(なにわ)とは、魚(な)の庭(大阪湾)が転じたもので、一説に浪速・難波の語源といわれる。(広辞苑)

行動計画の内容(1)

大阪湾再生 行動計画

陸域負荷削減の推進

第6次総量削減計画の着実な実施と基準の遵守の徹底、第7次総量規制の検討

下水道の普及促進、高度処理の促進と合流式下水道の改善等



農業集落排水施設の整備促進

浄化槽の整備・維持管理

河川の浄化対策(浄化施設設置等)



瀬と瀬浄化施設(大和川下流部)

森林の整備・保全の促進

陸域負荷削減以外(流入ごみ削減等)

海域での環境改善対策の推進

底泥浄化、生物浄化による水質改善

浅海域の創出、既存護岸等への環境機能付加による生物生息の創出



人工干潟(阪南2区)

臨海緑地、親水護岸の整備等の実施による親水性の向上

海岸、海底ごみ回収活動の実施
浮遊ごみ分布予測システムの構築等による浮遊・漂着・海底ごみの削減



大阪湾再生のためのモニタリング

環境監視のためのモニタリング

環境改善施策の効果把握に係るモニタリング

市民参加によるモニタリング

汚濁機構解明のためのモニタリング

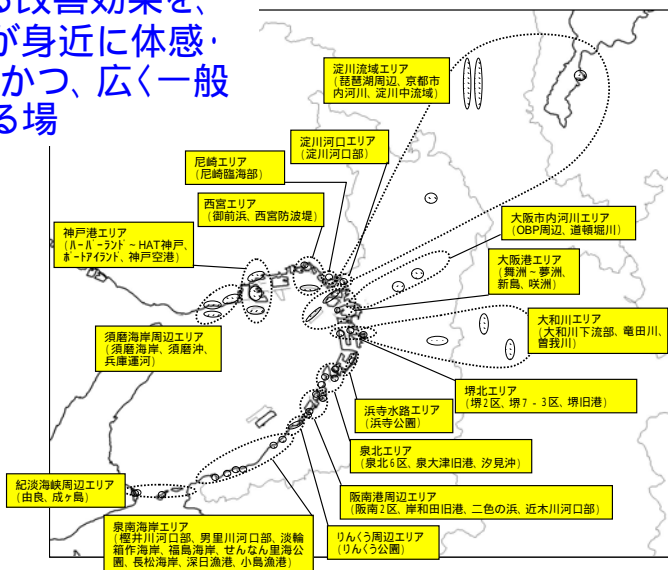
情報の共有化及び発信

6

行動計画の内容(2)

【アピールポイント】

→施策による改善効果を、一般市民が身近に体感・実感でき、かつ、広く一般にPRできる場



7

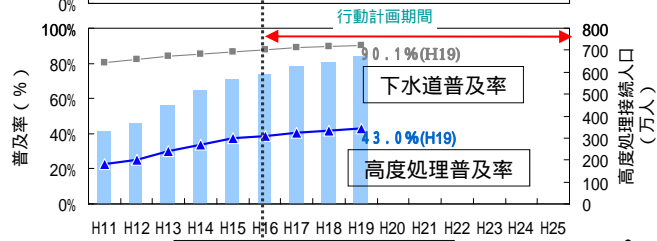
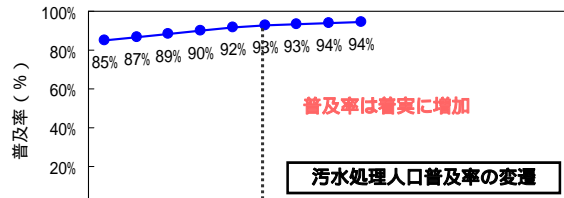
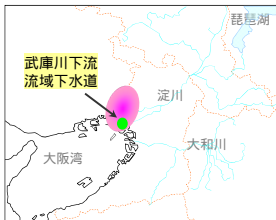
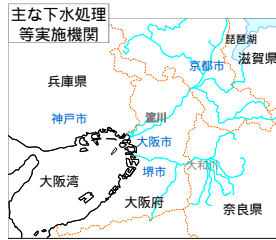
行動計画取組状況(陸域負荷の削減)

下水処理場等からの排出負荷量の削減

期間内に下水処理場の整備(4箇所) 供用開始済:2箇所、整備中:2箇所(大阪府)

期間内に新たな下水処理の高度処理化(24箇所) 一部供用開始:[堺市2箇所]、整備中7箇所

合流改善:武庫川下流流域下水道 平成20年度完了



下水道整備状況の変遷

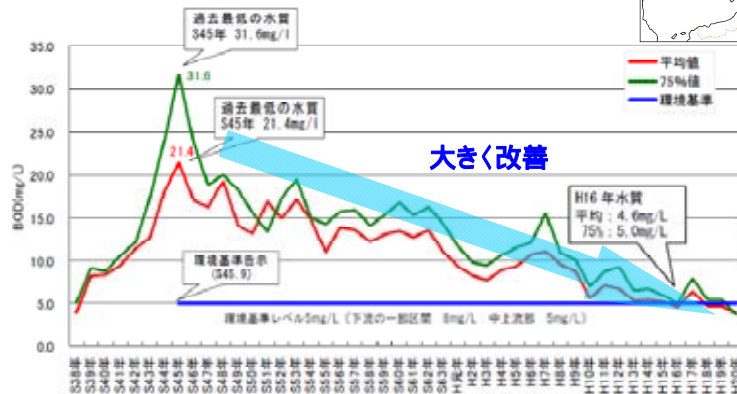
8

行動計画取組状況(陸域負荷の削減)

河川浄化

大和川:「河川浄化施設」+「下水道」の整備等

H20年の水質観測において観測史上最も良
好な水質を記録
 環境基準値を達成



大和川水系 水質(BOD)の変遷

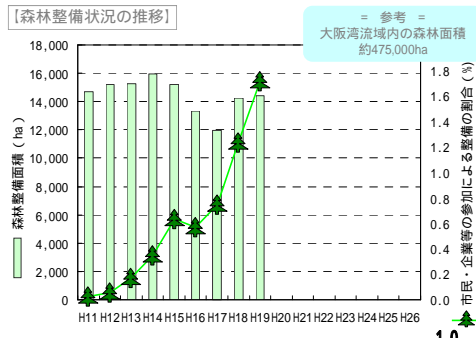
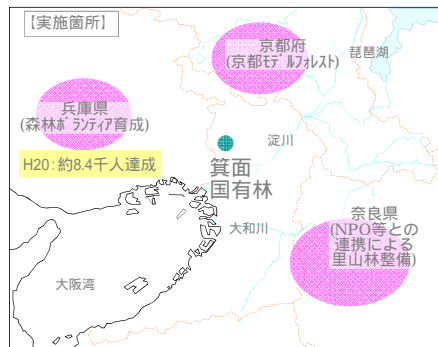
9

行動計画取組状況(陸域負荷の削減)

流域の森林整備

箕面国有林「里山整備モデル林」での「箕面体験学習の森」の設定、地域や森林ボランティアとの連携による森林整備の実施

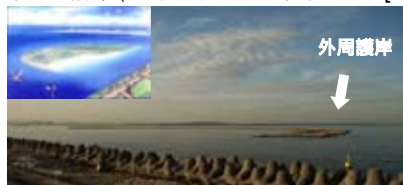
各府県で森林ボランティアとの連携による森林整備の実施



行動計画(海域での環境改善対策)

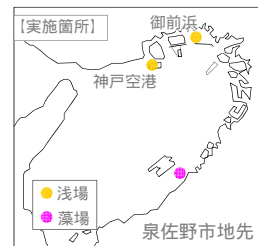
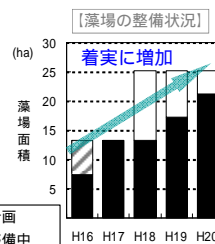
藻場・干潟等の浅海域の創出 < 干潟 >

2箇所で整備中(堺泉北港堺2区、泉北6区[大阪府])



行動計画期間	計画面積 (ha)	13.7
大阪湾内	現存干潟面積 (ha)	15

藻場・干潟等の浅海域の創出 < 藻場 >



11

行動計画(海域での環境改善対策)

親水性の向上

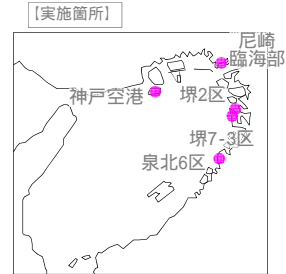
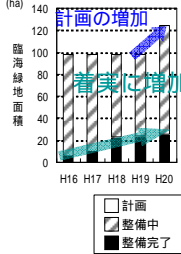
臨海部における親水緑地整備

完成 神戸空港西緑地(人工海浜)

新規着手 (堺2区: 基幹的広域防災拠点緑地) (ha)



堺2区・基幹的広域防災拠点緑地(イメージ)



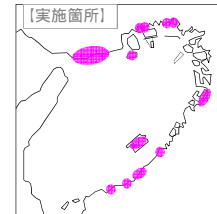
親水活動の実施

「なぎさ海道」ウォーク、「阪神なぎさ回廊ウォーク」



「なぎさ海道」ウォーク
りんくう公園・マーブルビーチ

【H20実施状況】
参加者数: 13,339人
開催回数: 23回
H21.1時点



12

行動計画取組状況(浮遊・漂着・海底ごみの削減)

河川清掃活動

「環境美化推進の日」「大和川・石川クリーン作戦」等、市民と連携した河川清掃



猪名川



大和川・石川クリーン作戦

漂着、浮遊、海底ごみ

「大阪湾クリーン作戦」、「リフレッシュ瀬戸内」の実施
海洋環境整備船によるごみ回収
底びき漁船による海底ごみ除去



海洋環境整備船(Dr.海洋)



海底ゴミ

ビニールごみ等が漁具の爪や網にかかっている



南港野鳥園



友ヶ島(和歌山)

13

行動計画取組状況 (モニタリング)

環境監視のためのモニタリングの実施

国、沿岸府県と臨海部の事業者・企業等と連携し、調査項目等の統一化・集約化をした、効果的・効率的な「大阪湾再生水質一斉調査」を実施。

【実施日】平成20年8月5日

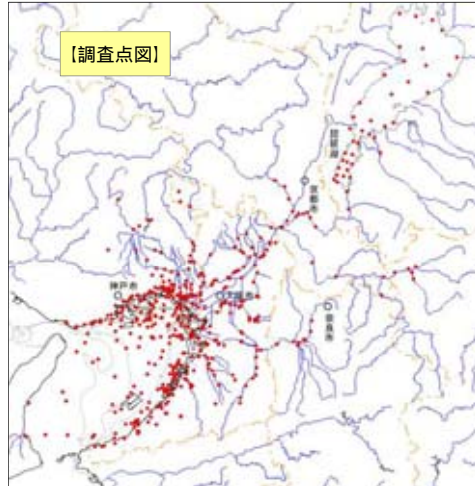
【調査地点】 海域: 194点

陸域: 246地点

調査点: 440点

参加機関・団体 34

行政: 18
 法人: 2
 企業: 12
 大学: 2



14

再生行動計画取組状況 (モニタリング)

市民参加によるモニタリング

大阪湾沿岸に生息する生き物の調査により水環境を把握する「大阪湾(生き物)一斉調査」を市民と連携して実施

【実施日】

平成20年6月21日

【主体】

大阪湾環境再生連絡会、
11市民団体

【参加者数】

470名

確認された貴重な生物(例)



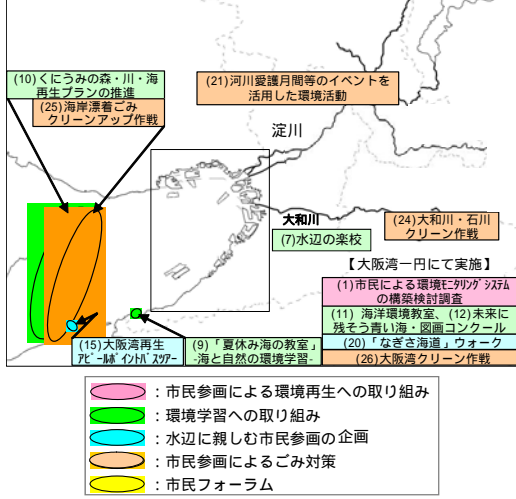
市民団体を中心に多くの市民が参加



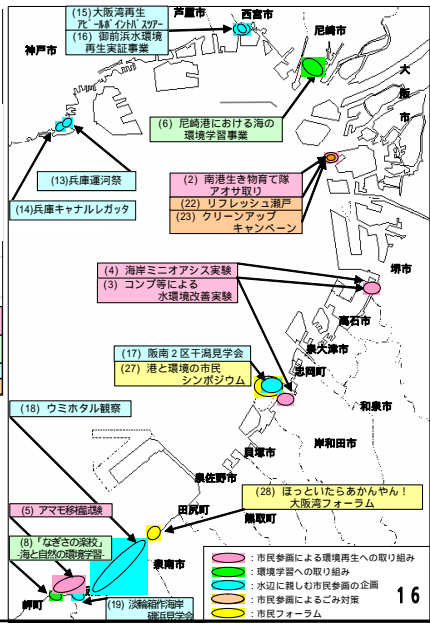
15

行動計画取組状況(協働)

拡大する市民参画の取り組み



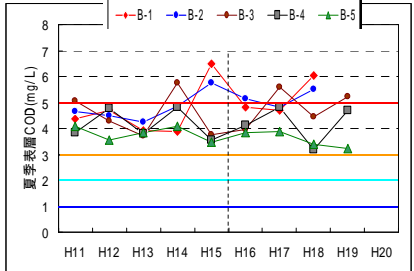
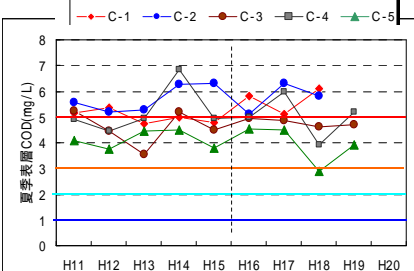
大阪湾周辺の各地で多様な取り組みを実施



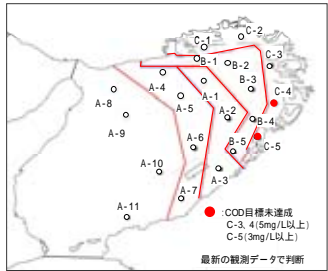
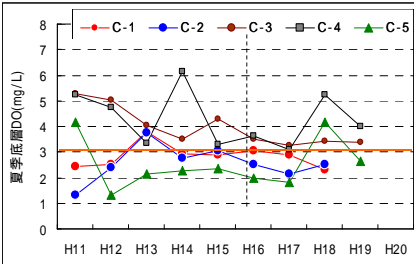
行動計画(COD・DOの達成状況)

親水活動に適した水質レベルを示す指標である「表層COD」には、明瞭な改善傾向はみられない

目標：親水目的により「1-5mg/L」（表層COD）
 ・散策・展望：5mg/L以下 ・潮干狩り：3mg/L以下
 ・海水浴：2mg/L以下 ・ダイビング：1mg/L以下



生物が生息できる水質レベルを示す指標である底層DOには、明瞭な改善傾向はみられない

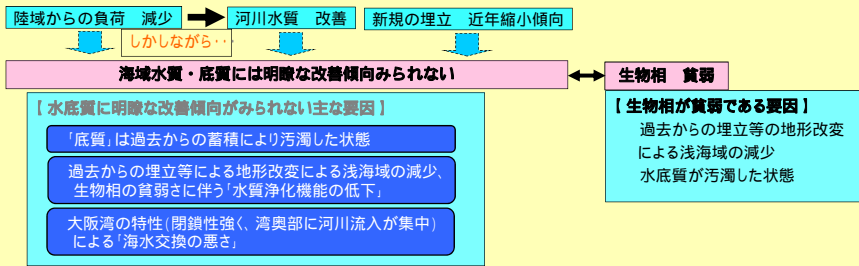


行動計画(課題と取組)

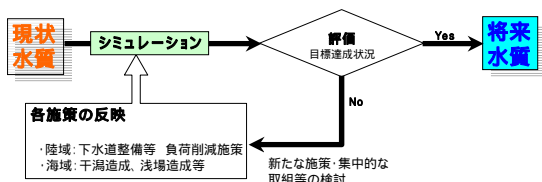
【効率的・効果的な施策の展開(大阪湾の環境分析)】

効率的、効果的な施策展開の推進のため、大阪湾・集水域の現状・変遷の整理・分析、大阪湾水質や生物生息へ及ぼす影響の要因分析

大阪湾における水環境の課題とその要因



水質シミュレーションによる施策効果・目標達成に必要な施策の検討

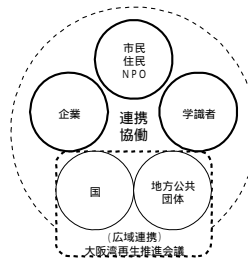


18

大阪湾再生行動計画

～森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭(なにわ)の海」を回復し、京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する～

人口は依然多く、港はにぎわう。しかし、陸域は各種下水道整備等で大阪湾流入水質はきれい、ヘドロも没藻等で減り海域の内部生産低下、夏期の溶存酸素豊富に、人工干潟、親水護岸、海辺の緑等の整備により、豊かな生態系の回復と、人々に快適な親水空間の創出。



19